

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2025
DECEMBER

No. 149

Tue. 2nd December
Tokyo Opera City Series

No. 737

Sat. 13th December
Subscription Concert

Special
Concert

Mon. 22nd December
Sun. 28th December
Mon. 29th December

12



Jonathan Nott, Music Director



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	ユベール・スターン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉音楽監督	秋山和慶◆
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス◆
	上田 仁◆
	遠山信二◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

第1コンサートマスター	小川ニキティンブレブ
	景山昌太郎
	小林杏成

コンサートマスター	田尻 順
	吉江美桜*

会長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創
	依田 巽
専務理事	廣岡克隆
理事	阿部武彦 辻 敏
	池辺晋一郎 永山 治
	伊藤美樹 夏野 剛
	大橋 博 南部 靖之
	コシジユンコ 福川伸次
	菅谷貴子 増岡聡一郎
	竹中平蔵 森 京子

監 事	寺西基之
	渡邊芳樹
評議員長	梅沢一彦
評議員	穴水 孝 金山茂人
	鷺海聖明 星 久人
	片山泰輔 芳野まい
	加藤英輔

最高顧問	金山茂人
特別顧問	飯島延浩 福田紀彦
	窪田雅己

最高首席奏者	加藤合酒美
首席奏者	菅原新一
首席奏者	甲藤さち
首席奏者	加藤信吾
首席奏者	金澤 茂
首席奏者	久保田一穂
首席奏者	熊谷仁士
首席奏者	眞原崇司
首席奏者	小林照雄
首席奏者	小林利彰
首席奏者	小林亮子
首席奏者	阪本正彦
首席奏者	佐川聖二
首席奏者	佐々木真
首席奏者	塩谷しずか

【ハーブ寄贈：環境ステーション株式会社】

1st Violins
○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理
吉田みのり*

2nd Violins
◎清水泰明
◎服部亜矢子
○加藤まな
○福留史純
河裾あずさ
小山あずさ
鈴木浩司
辻田薫り
阿部真弓
坂井みどり

Violas
◎青木篤子
◎武生直子
◎西村真紀
◎多井千洋
◎山廣みほ
新井瑞穂
小西広興
鈴木まり奈

Cellos
☆伊藤文嗣
○川井真由美
内山剛博
盤江慶行●
樋口泰世
福岡茉莉子
渡邊ゆかり

Double Basses
◎助川 龍
◎コーディー・ローズブーム
○北村一平
○久松ちず
安田修平
渡邊淳子
内岡沙月*

Flutes
◎相澤政宏
◎山山 愛
濱崎麻里子

Flute & Piccolo
濱崎麻里子

Oboes
◎荒 絵理子
◎荒木良太
浦脇健太

Oboe & English horn
最上峰行

Clarinets
◎エマニュエル・ヌヴー
◎吉野亜希菜
近藤千花子
務川広貴*

Bassoons
◎福士マリ子
◎藤井 蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns
◎上間善之
白井有琳
藤田麻理絵

Trumpets
◎澤田真人
◎ローリー・ディラン
野沢岳史●
松山 萌

Trombones
◎大馬直人
◎鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone
藤井良太

Tuba
近藤陽一

Timpani & Percussions
◎清水 太
◎山村雄大
武山芳史
綱川淳美

Harp
渡辺沙羅

Librarians
林 知也
加藤幸子

Stage Managers
西岡理佐
山本 聡

楽団役員
井伊 準◆

楽団長
廣岡克隆

編成局シニアディレクター
藤原 真

編成局パーソネルマネージャー
謝名元 民

楽団委員
小西広興(議長)
浦脇健太(書記)
清水 太
鈴木浩司
綱川淳美
最上峰行

事務局長
辻 敏

事務局
□高瀬 緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎 日向
小川博司
相原美砂
長久保宏太郎
三橋真琴
山田道子
■梶川純子
藤山保子*
山本未央子*

名譽団友
深江泰輔◆
三木彌雄◆

団 友	
天野佳和	藤崎 隆
安藤史子	菅野明彦
池田 暉	杉浦直基
石川陽依世	鈴木一輝
今村和弘	曾根敦子
岩澤淳子	高野成之
上原規照	武田英昭
上原未莉	田中真輔
内田彬穂	千村雅信
内田乃利子	十亀正司
宇部 実	豊山 信
梅田 学	永井聖乃
大隅雅人	中塚和隆
大塚正昭	中塚博則
大塚雅英	中山 智
大和田浩明	新澤典美
大和田ルース	西依智子
小川さえ子	西脇秀治
萩野 昇	野村真澄
柴田昌史	馬場隆弘
菅川優二	原田美保子
加藤合酒美	日野 奏
菅原新一	ペアンチ・
甲藤さち	ポーマン
加藤信吾	前田健一郎
金澤 茂	松崎里絵
久保田一穂	丸山正昭
熊谷仁士	三浦正信
眞原崇司	宮原祐子
小林照雄	宮本直樹
小林利彰	宮本 睦
小林亮子	森みさ子
阪本正彦	諸橋健久
佐川聖二	渡辺 功
佐々木真	渡辺哲郎
塩谷しずか	渡辺裕子

☆ソロ首席奏者 □客演首席奏者 ◎首席奏者 ○フォアシュペラー ●インスペクター □部長 ■シニアディレクター * 研究員・準事務局員 ◆ 故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い/高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご注意ください。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえます

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、お席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただけますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。

※スマートフォン、携帯電話、コンパクトデジタルカメラ以外の撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

12/2 TUE.

東京オペラシティシリーズ 第149回

2025年12月2日(火) 19:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.149

Tue. 2nd December 2025, 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

原田慶太楼[指揮]

小林愛実[ピアノ]

小林春成[コンサートマスター]

HARADA Keitaro, Conductor

KOBAYASHI Aimi, Piano

KOBAYASHI Issey, concertmaster

グリーグ:パール・ギュント

第1組曲 op.46(15')

- I. 朝の気分
- II. オーセの死
- III. アントラの踊り
- IV. ドヴレ山の王の広間にて

GRIEG: Peer Gynt,

Suite No.1 op.46(15')

- I. Morning - mood
- II. The death of Ase
- III. Anitra's Dance
- IV. In the Hall of the Mountain - King

グリーグ:ピアノ協奏曲

イ短調 op.16(35')

- I. アレグロ・モルト・モデラート
- II. アダージョ
- III. アレグロ・モデラート・モルト・エ・マルカート

休憩(20')

GRIEG: Piano

Concerto in A minor op.16(35')

- I. Allegro molto moderato
- II. Adagio
- III. Allegro moderato molto e marcato

Intermission(20')

芥川也寸志:交響曲 第1番(28')

- I. アンダンテ
- II. アレグロ
- III. コラル: アダージョ
- IV. アレグロ・モルト

AKUTAGAWA: Symphony No.1(28')

- I. Andante
- II. Allegro
- III. Chorale: Adagio
- IV. Allegro molto

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.6をご覧ください



12/2 TUE.



©MASATOSHI YAMASHIRO

HARADA Keitaro

Conductor

原田慶太楼

[指揮]

Permanent Conductor
正指揮者

東京交響楽団正指揮者、愛知室内オーケストラ首席客演指揮者兼アーティストック・パートナー、米国サヴァンナ・フィル音楽&芸術監督、そして2025年7月からデイトン・フィルとデイトン・オペラ&バレエの音楽・芸術監督にも就任した、国際的に目覚ましい活躍を続ける期待の俊英。ジェームズ・レヴァインやロリン・マゼールのアシスタントを務めてアリゾナ、ノースカロライナ、シンシナティ、ブルガリア国立歌劇場などオペラでも脚光を浴び、最近では日生劇場ドニゼッティ「連隊の娘」やデイトンでのヴェルディ「アイダ」でも舞台を力強く牽引しオペラ指揮者としての資質を感じさせた。タンブルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、米国ショルティ財団のキャリア支援賞6度と日本人で初めてトップのコンダクター賞を受賞。キャッソルトン・フェスティバルにロリン・マゼールから、PMFにはファビオ・ルイジから招待を受け参加。第29回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第20回藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

オフィシャル・ホームページ:

kharada.com/ @KHconductor

Keitaro Harada has been the Music & Artistic Director of the Savannah Philharmonic since the 2020-21 season, transforming the orchestra with his original programs and charismatic presence, energizing audiences throughout the region. He became the Permanent Conductor of the Tokyo Symphony Orchestra from 2021, the Principal Guest Conductor and Artistic Partner of the Aichi Chamber Orchestra from 2024, and the Music & Artistic Director of the Dayton Philharmonic from July 2025. He is a promising young talent who continues to achieve remarkable success mainly in the United States, Europe, and Asia. He has built a close relationship with the NHK Symphony Orchestra, performing with them frequently and recording three albums with them. His musical vision is also diverse, ranging from symphonies, operas, and chamber music to pops, film music, educational outreach, and interdisciplinary projects, all of which enrich his programs.

kharada.com/ @KHconductor



© HOSOO CO., LTD.

KOBAYASHI Aimi

Piano

小林愛実
[ピアノ]

2021年10月「第18回ショパン国際ピアノコンクール」第4位入賞。

7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューを果たした。数多くの国に招かれ、スピヴァコフ指揮モスクワ・ヴィルトゥオーゾ、ブリュッヘン指揮18世紀オーケストラ、ソヒエフ指揮 ミュンヘン・フィルハーモニー管など多数のオーケストラと共演。2010年14歳でEMI ClassicsよりCDデビュー。

2015年10月「第17回ショパン国際ピアノコンクール」ファイナリスト。

2018年ワーナークラシックスとインターナショナル契約し、「ニュー・ステージ〜リスト&ショパンを弾く」をリリース。2021年8月CD「ショパン：前奏曲集 他」をリリース。

2024年11月に最新CD「シューベルト：4つの即興曲 作品142、ピアノ・ソナタ第19番ハ短調、ロンド イ長調(連弾)他」をリリース。

2022年3月、第31回出光音楽賞受賞。

Fourth Prize winner of the 18th Chopin Piano Competition, Aimi Kobayashi, garnered international acclaim for her exceptional talent. She is considered one of the most sought-after pianists in Japan of her generation. In Japan she regularly performs with NHK Symphony Orchestra, Japan Philharmonic Orchestra and New Japan Philharmonic. In March 2020, she played Liszt's Piano Concerto No. 1 in E-flat major with Tonhalle-Orchester Zürich under Kristiina Poska. In October 2024, she played Ravel's Piano Concerto in G with Tokyo Symphony Orchestra under Krzysztof Urbanski. In November 2024, she played Rachmaninov's Rhapsody on a Theme of Paganini op.43 with Tugan Sokhiev conducts Münchner Philharmoniker. In October 2025, she played Chopin's Piano Concerto in E minor with Christian Arming conducts Sinfonia Varsovia. Her latest recording is "Schubert"(2024) from Warner Classics. She studied with Meng-Chieh Liu at the Curtis Institute of Music.

12/2 TUE.

エドヴァルド・グリーグ(1843~1907)

ペール・ギュント 第1組曲 op.46

19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍し、数々の名曲を残したノルウェーの作曲家エドヴァルド・グリーグ(1843~1907)。《ペール・ギュント第1組曲》は、彼の代表作中の代表作とも言える作品であろう。

この組曲は、ノルウェー人作家ヘンリック・イプセンの戯曲『ペール・ギュント』のためにグリーグが書いた劇付随音楽からの4曲を作曲家自身がまとめたものである。この戯曲は1867年に出版された韻文による全5幕の喜劇で、ノルウェー民話を下地に、農家の息子で大嘘つきのペールが自分勝手に振る舞いながら世界を旅する様子が描かれている。主人公のペールはイプセンの考える典型的なノルウェー人であるとも言われているが、物語のテーマは「自分自身であるとは何か」であり、それが分からなくなっていたペールは最後に故郷で待つ恋人ソルヴェイグに救われる。

グリーグは1874年1月にイプセンから作曲依頼の手紙を受け取った。しかしこの劇詩のことを「あらゆる題材の中で最も非音楽的」と言うほど作曲には苦戦し、ようやく完成したのは1875年7月のことだった。全26曲、演奏時間約1時間半の大作である。初演は劇そのものの初演でもあり、4時間以上かかったという。これは大成功で、その後も上演を重ねた。《ペール・ギュント》はのちに組曲として4曲ずつがまとめられ、本日演奏される第1組曲は1888年に、第2組曲は1893年に出版された。日本においても1890年代には第1組曲のいくつかが演奏されており、長く親しまれてきた。

第1曲〈朝の気分〉は第4幕への前奏曲。舞台はアフリカだが、冒頭の五音音階のメロディはどこか懐かしさを感じさせる。場所を超えて朝のすがすがしさが表現されていく。第2曲〈オーセの死〉は第3幕への前奏曲で、ペールの母オーセが臨終の床に就く場面でも演奏される厳粛な音楽。第3曲〈アニトラの踊り〉は、第4幕でアラブ部族首長のテントでアニトラが妖艶に踊る舞曲。第4曲〈ドヴレ山の王の広間にて〉は、第2幕でペールがドヴレ山の年老いた王の広間に迷い込み、大勢のトルロルたちが騒然となり興奮する場面への導入で演奏される、きわめて大胆な音楽である。

小林ひかり Text by KOBAYASHI Hikari

作曲:1874~1875年劇付随音楽《ペール・ギュント》op.23、1887~1888年《ペール・ギュント第1組曲》op.46のための改稿

初演:1876年2月24日クリスチャニア劇場(クリスチャニアは現在のオスロ)、ヨハン・ヘンヌム指揮

編成:フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦5部

エドヴァルド・グリーグ(1843~1907)

ピアノ協奏曲 イ短調 op.16

ピアノ協奏曲イ短調は、《パール・ギュント第1組曲》と並んでグリーグの最も広く知られている作品であろう。この協奏曲はグリーグが25歳の時に作曲された。結婚の翌年で娘が生まれたばかりの、人生の幸せな時期であった(ところがその娘はピアノ協奏曲初演の翌月に1歳で夭逝するという悲劇が起こる)。1868年の夏、グリーグは妻子がコペンハーゲンに住む妻の両親のもとで過ごす間、ピアノ協奏曲の作曲に専念するため、コペンハーゲン郊外の田舎町セレズに滞在する。そこで一緒に過ごした友人のひとりが、この協奏曲が献呈され初演でソリストを務めることになるエドモン・ネウペットだ。グリーグ自身もピアノを巧みに弾いたが、一流ピアニストであるネウペットから助言を得られたのは有意義だった。初演は嵐のような拍手が起こるほどの大成功。その様子を不在だったグリーグに友人たちが手紙で伝えている。ニルス・ゲーゼやアントン・ルビンシテインらの重鎮も特別席で聴いた。

第1楽章冒頭のピアノ独奏は、まるでフィヨルドに落ち込む滝のようで、聴き手に強烈な印象を与える。この「ラーソ#ーミ」という「短2度下行―長3度下行」の音型は、この協奏曲の重要なモチーフ。ノルウェーの民俗音楽によくある特徴で、グリーグの多くの作品に見られることからグリーグ・モチーフとも呼ばれる。第2楽章は非常に美しく詩的な緩徐楽章。第3楽章は快活なノルウェー舞踊を思わせる主題を持つ。中ほどでは先述のモチーフがフルートによるへ長調の抒情的なメロディで出てくる。北欧の山々の清涼な空気を感じさせるようなこのメロディは、コーダの後半では堂々たるクライマックスで登場する。

本作品は同じ調性のシューマンのピアノ協奏曲をモデルにしたと言われている。グリーグはライプツィヒ音楽院留学1年目の1858年にシューマンの妻クララが弾くその協奏曲を聴いており、その影響は大きく、確かにいくつかの類似点が認められる。しかしグリーグの協奏曲で前面に出てくるのは、沸き立つような喜びの率直な表現であり、快活さと優しさと純真さがある。そこにノルウェーらしさも加わって、この作品は若きグリーグの個性が存分に発揮された渾身の大作となっている。

小林ひかり Text by KOBAYASHI Hikari

作曲：1868年 1872年の出版の後、1882年、1890年、1894~1895年、1906~1907年に改稿

初演：1869年4月3日コペンハーゲン、カシノ大ホール、ホルガー・シモン・パウリ指揮、エドモン・ネウペット独奏

編成：独奏ピアノ、フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

12/2 TUE.

芥川也寸志(1925~1989)

交響曲 第1番

芥川也寸志は4楽章からなる「本格的な」交響曲第1番を発表するに至るまでに、そこに繋がる作品をいくつか作曲している。『交響管弦楽のための前奏曲』(1947)、『交響三章』(1948)、『交響管弦楽のための音楽』(1950)、そして『弦楽のための三楽章』(1953)の4作である。『交響管弦楽のための前奏曲』と『交響管弦楽のための音楽』は2楽章構成、残りの二つは3楽章構成にまとめられた。本作も初演した際には3楽章構成であったが、翌年に現行の第2楽章を加えた4楽章構成となり、その際に全面的な改訂が行われた。

第1楽章 アンダンテ:ソナタ形式。クラリネットで提示される旋律は、ショスタコーヴィチの交響曲第5番冒頭と同じように、8音音階(メシアンの移高の限られた旋法の第2旋法)への指向性をもつ。この旋律に他の楽器が次々と重ねられ、重苦しい頂点へと達し、第1主題群を形成する。続く木管群による第2主題も前半の重苦しさを引きずる。悲痛さを漂わす展開部では、ショスタコーヴィチの交響曲第5番冒頭主題の仄めかしも聴こえる。第2主題と第1主題群が再現されたあと、最後は静かに引いて終わる。

第2楽章 アレグロ:弦楽器が主体のスケルツォ楽章。芥川らしい小気味好く、颯爽とした楽想がより諧謔味を強めている。第2楽章にスケルツォを挿入したのは、ショスタコーヴィチの交響曲第5、7番やプロコフィエフの交響曲第5番などから得た発想だろう。

第3楽章 コラール(アダージョ):3部形式。半音階的な一連の和声から始まる。この部分は、8音音階とチェレプニン音階(移高の限られた旋法の第3旋法)に音を加減した音組織で構成されており、この和声にティンパニを中心とした打楽器が重なり、音量を増しながら全音階クラスターの頂点へと至る。中間部では哀切な歌が奏でられるが、それも再び冒頭の楽想によって断ち切られる。

第4楽章 アレグロ・モルト:3部形式。疾走する楽想の展開から始まる。プロコフィエフの交響曲第5番の第2楽章を想起させずにはおかない楽想だが、これは意識的な様式の借用だろう。この楽想が中間部で突如として立ち現れる音響に阻まれたあと、ややあって音楽は結尾に向かって狂騒的に盛り上がり、次第に諧謔さが溢れ出して締め括られる。

竹内直 Text by TAKEUCHI Nao

作曲:1954年

初演:1954年1月26日東京、芥川也寸志指揮、東京交響楽団

改訂初演:1955年12月8日東京、上田仁指揮、東京交響楽団

編成:フルート2、ピッコロ、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン6、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、タムタム、シロフォン、ハープ、弦5部

12/13 SAT.

第737回 定期演奏会

2025年12月13日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.737

Sat. 13th December 2025, 18:00 Suntory Hall

ロス・ジェイミー・コリンズ[指揮]

大谷康子[ヴァイオリン]

景山昌太郎[コンサートマスター]

Ross Jamie COLLINS, Conductor

OHTANI Yasuko, Violin

KAGEYAMA Shotaro, Concertmaster

マルサリス:ヴァイオリン協奏曲 二長調(40')

- I. ラプソディ
- II. ロンド・バールェスク
- III. ブルース
- IV. フーテナニー

休憩(20')

コープランド:交響曲 第3番(40')

- I. モルト・モデラート
- II. アレグロ・モルト
- III. アンダンティーノ・クアジ・アレグレット
- IV. モルト・デリベラート

MARSALIS: Violin Concerto in D (40')

- I. Rhapsody
- II. Rondo Burlesque
- III. Blues
- IV. Hootenanny

Intermission(20')

COPLAND: Symphony No.3 (40')

- I. Molto moderato, with simple expression
- II. Allegro molto
- III. Andantino quasi allegretto
- IV. Molto deliberato - (freely, at first)

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

当初本公演への出演を発表していた、東京交響楽団永久名誉音楽監督秋山和慶氏は2025年1月逝去されました。
深く哀悼の意を捧げます。

楽曲解説はP.12をご覧ください



12/13 SAT.



© Mika Takala

Ross Jamie COLLINS

Conductor

ロス・ジェイミー・
コリンズ

[指揮]

英国で生まれ、フィンランドで育った指揮者。これまでにロサンゼルス・フィルのドゥグメル・元フェロー、アイスランド響の常任指揮者、タングウッド音楽センターの指揮フェローを務めた。

2026/27シーズンは、ペトル・ポペルカなど輩出している北ドイツ放送フィル(NDR)の指揮フェロー、リエージュ王立フィルの副指揮者に就任し、2つの教育プロジェクトを行う予定。

今シーズンは、東京交響楽団、ヘルシンキ・フィル、アイスランド響に客演するほか、新作『パルス』でフィンランド国立バレエ団へデビュー。その他、フィルハーモニア管、ノールショピング響、トゥルク・フィル、エヴァーグリーン響に客演した。

2025年夏にグラミー賞受賞の歌手レイヴェイの「A Night at the Symphony」にて、クリーヴランド管、フィラデルフィア管、ヴァージニア響、シャトークア響を率いて全米ツアーを指揮し、好評を博した。

In the 25/26, Finnish-British conductor Ross Jamie Collins joins the NDR Elbphilharmonie as Conducting Fellow and the Orchestre Philharmonique Royal de Liège as Assistant Conductor, leading two education projects.

This season he returns to Tokyo Symphony, Helsinki Philharmonic, and Iceland Symphony, and debuts with the Finnish National Ballet in the new production Pulse. Other recent highlights include Evergreen Symphony, Norrköping Symphony, Philharmonia Orchestra and Turku Philharmonic.

Summer 2025 highlights included conducting Grammy award winning singer-songwriter Laufey's "A Night at the Symphony" US tour with The Cleveland Orchestra, Philadelphia Orchestra, Virginia Symphony and Chautauqua Symphony.

A former Dudamel Fellow with the Los Angeles Philharmonic, Collins has served as Resident Conductor of the Iceland Symphony, and Conducting Fellow at Tanglewood Music Center.



© Yukisuke Fushimi

OHTANI Yasuko

Violin

大谷康子
[ヴァイオリン]

Honorary Concertmaster
名誉コンサートマスター

2025年にデビュー50周年。1月にサントリーホール大ホールにてデビュー50周年記念演奏会、5月全国ツアー14公演(ピアノ:イタマール・ゴラン)。1995年より東京交響楽団でコンサートマスター、ソロ・コンサートマスターを21年間務め、2016年退任時に名誉コンサートマスターの称号を贈られる。N響、キョウ国立フィルなど内外の著名なオーケストラと多数共演。

著書に「ヴァイオリニスト 今日も走る」(KADOKAWA)。CD多数。BSテレ東「おんがく交差点」では司会・演奏を務める。文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。元東京藝術大学客員教授。(公財)練馬区文化振興協会理事長。川崎市市民文化大使。(公財)日本交響楽振興財団理事。(公社)日本演奏連盟常任理事。日本音楽財団より貸与のストラディヴァリウス「ロード・ニューランズ」(1702年製)使用。本年大晦日、23:30からTV東京「東急ジルベスターコンサート」に出演決定。

【HP】<https://www.yasukohtani.com>

【YouTube】「大谷康子のやっこチャンネル」

In 2025, Yasuko Ohtani celebrates the 50th anniversary of her debut. She gave a 50th anniversary concert at Suntory Hall and held a tour throughout Japan (piano: Itamar Golan). She was appointed the Concertmaster of the Tokyo Symphony Orchestra in 1995 and served as the Solo Concertmaster for 21 years. In recognition of her distinguished service, she was named Honorary Concertmaster. She has performed with many famous orchestras, including the NHK Symphony Orchestra, and Kyiv National Philharmonic Orchestra. Ohtani wrote the book "Violinist, Rushing Around Today Too!". Active in many fields, she hosts and performs on BS TV Tokyo's "Ongaku Kousaten". She received the Agency for Cultural Affairs' "Arts Festival Award". She is a professor at Tokyo College of Music. She serves as Chair of the Nerima Ward Promotion Cultural Association, Kawasaki City Cultural Ambassador, Director of the Japan Symphony Foundation, and Executive Director of the Japan Federation of Musicians. She plays a Stradivarius "Lord Newlands" (made in 1702), on loan from the Nippon Music Foundation. Scheduled to perform at the Tokyu Silvester Concert broadcast on TV Tokyo at 11:30 PM on New Year's Eve.

12/13 SAT.

ウィントン・マルサリス(1961~)

ヴァイオリン協奏曲 二長調

ジャズピアニストのエリス・マルサリス(1934~2020)の次男としてウィントン・マルサリスは1961年にジャズ誕生の地ニューオーリンズで生まれた。6人兄弟のうち、自らを含む4人がジャズミュージシャンとなった音楽家一家の出身だ。6歳からトランペットを吹きはじめ、学校ではクラシック音楽を学んだ。1979年にジュリアード音楽院に入学したのだが、1980年にアート・ブレイキーのグループに抜擢されたことでプロのジャズミュージシャンとして忙しくなり、音楽院は1981年に中退。それでもクラシック音楽の演奏を続け、1983年のグラミー賞ではジャズとクラシックの部門を同時に受賞している。

ただしクラシック音楽をレコーディングしていたのは1990年代までで、1995年に初演された弦楽四重奏曲あたりからクラシック音楽の演奏家のための作品が書かれるようになっていく。作曲家としての評価を確立したのは名誉あるピューリッツァー賞を受賞したオラトリオ《ブラッド・オン・ザ・フィールズ(1997)》だが、こちらはビッグバンドとジャズヴォーカルのための作品である。そのおよそ8年前、28歳の頃から指揮者クルト・マズアからニューヨーク・フィルのために作曲してほしいと求められたというが、そこから10年ほどかけてオーケストラのために作曲する方法を学び、1999年に交響曲第1番にあたる《ALL RISE》がマズア指揮で初演された。来年2026年5月には交響曲第5番《リパティエ》の初演が予定されている。

協奏曲についてはチューバ協奏曲(2021)やトランペット協奏曲(2023)も書かれているが、このヴァイオリン協奏曲はスコットランド出身のニコラ・ベネデッティ(1987年生まれ)のために作曲された全4楽章の作品。収録されたアルバムが2019年に発売されると、翌年にグラミー賞を受賞している(なおベネデッティはマルサリスと結婚したことを今年7月に認め、2人の間には2024年5月に娘が誕生しているという)。

穏やかな夢と悪夢を行き来する**第1楽章「ラプソディ」**で始まり、ニューオーリンズの多様な音楽をごちゃ混ぜにした**第2楽章「ロンド・ブルレスカ(バーレスク)」**がスケルツォに相当する。次の緩徐楽章に入る前にが途中で打楽器を伴う「カデンツァ」を経て、愛憎入り交じるような人間臭い**第3楽章「ブルース」**に。第4楽章「フーテナニー」では(主にフォークミュージックで行われてきた)観客を巻き込む即興的なパフォーマンスを模している。

小室敬幸 Text by KOMURO Takayuki

作曲:2015年

初演:2015年11月6日ロンドン、バービカン・センター、ジェイムズ・ガフィガン指揮、ニコラ・ベネデッティ独奏、ロンドン交響楽団

編成:独奏ヴァイオリン、フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ3(イングリッシュホルン持替1)、クラリネット3(小クラリネット持替1、バスクラリネット持替1)、ファゴット3(コントラファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、サスペンドシンバル、タムタム、タンバリン、トライアングル、ウッドブロック、サンドブロック、サンドペーパーブロック、カウベル、警笛、マリンバ、シロフォン、ヴィブラフォン、グロックケンシュペール、ドラムセット、ハープ、弦5部

アーロン・コーブランド(1900~1990)

交響曲 第3番

アーロン・コーブランド(1900~90)はニューヨーク市ブルックリン区に生まれ、1921年にフランスに渡航。パリでラヴェルやストラヴィンスキー、ミヨーなどの新しい音楽に触れ、24年に帰国した。先鋭的な作曲家としてデビューするが、大恐慌時代に映画やラジオの音楽を担当し、前衛音楽とは違った聴衆がいることを発見してからは大衆に親しみやすい作品を書くようになった。メキシコの酒場の音楽に触発された管弦楽曲《エル・サロン・メヒコ(1933~36)》、西部劇映画を彷彿とさせる《ビリー・ザ・キッド(1938)》、《ロデオ(1942)》、大平原を想起させる《アパラチアの春(1946)》などのバレエ音楽が親しまれている。

交響曲第3番についてコーブランドは、特定の情景や物語を表現したものではないと主張する。しかしジャズなど直接的な要素を使わずにアメリカらしさを表現し、同国を代表的する交響曲の一つになった。

交響曲第3番の第1楽章は、静かに始まり、中間部に盛り上がり、最初の雰囲気に戻る三部形式である。主題は3つあり、弦楽による冒頭の旋律が第1主題。この展開の後にヴィオラとオーボエによって奏されるのが第2主題(性格的には第1主題と似ている)、トロンボーンによる第3主題は緊張感ある、対位的な中間部に使われる。

第2楽章はスケルツォで、金管楽器のファンファーレが支配的である。3拍子のトリオ(中間部)は、弦楽や木管を中心とした柔らかな響き。やがてスケルツォ主部の旋律に戻る。第3楽章は広大な大地を思い起こさせる透明な響きで、第1楽章の第3主題にもとづく主題が登場する。アップテンポの中間部を備えた三部形式である。

切れ目なく演奏される第4楽章は、フルートとクラリネットによる自作の《市民のためのファンファーレ》の引用から始まる。このファンファーレは第二次世界大戦の人々の意識を高めるため1942年に書かれた。堂々とした余韻に続き、第4楽章の主部がオーボエによる小気味良い第1主題で始まる。トロンボーンによるファンファーレ主題に導かれてこの展開が静まると、変拍子による第2主題が弦楽合奏を中心に奏される。ここまで提示された主題を使って楽章はロンド風に高揚するが、鋭い全奏によって制止される。すると優しい音の世界が開かれ「ファンファーレ」を使った大団円へと導かれる。

谷口昭弘 Text by TANIGUCHI Akihiro

作曲: 1944~1946年

初演: 1946年10月18日ボストン、セルゲイ・クセヴィツキー指揮、ボストン交響楽団

編成: フルート3(ピッコロ持替1)、ピッコロ、オーボエ3(イングリッシュホルン持替1)、小クラリネット、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、中太鼓、小太鼓、シンバル、ウッドブロック、タムタム、トライアングル、スラップスティック、アンヴィル、ラチェット、クラベス、シロフォン、グロッケンシュピール、チューブラベル、ハーブ2、ピアノ、チェレスタ、弦5部

12/22 MON.

ロイヤル・バンコク交響楽団&東京交響楽団 フレンドシップ・コンサートwith新妻聖子

2025年12月22日(月) 19:00 ミューザ川崎シンフォニーホール



RBSO and TSO Friendship Concert with Niizuma Seiko

Mon. 22nd December 2025, 19:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

大友直人 [指揮]
新妻聖子 [ヴォーカル]*
大木麻理 [オルガン]
ロイヤル・バンコク交響楽団&
東京交響楽団合同オーケストラ [管弦楽]
小川ニキティンブレブ [コンサートマスター]
ピン・ハン [コンサートマスター]

OTOMO Naoto, Conductor
NIIZUMA Seiko, Vocal*
OHKI Mari, Organ
Royal Bangkok Symphony Orchestra &
Tokyo Symphony Orchestra, Orchestra
OGAWA Nikitingleb, Concertmaster
BING Han, Concertmaster

第1部

芥川也寸志:交響管弦楽のための音楽から第2楽章(5')

ラーマ9世(Pramoj編):アレクサンドラ(6')

サン=サーンス:交響曲 第3番 八短調 op.78

[オルガン付き]から第II部(10')

・アレグロ・モデラート - プレスト ・マエストーソ - アレグロ

休憩(20')

第2部

ロジャース(ベネット編):サウンド・オブ・
ミュージック・メドレー(12')*シェーンベルク(佐藤泰将編):ミュージカル
「レ・ミゼラブル」からオン・マイ・オウン(5')*

アンダーソン:クリスマスフェスティバル(7')

久石譲:ジブリ映画「天空の城ラピュタ」から君をのせて(3')*

ホーナー(佐藤泰将編):映画「タイタニック」から
マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン(4')*

アンダーソン:そりすべり(3')

プッチーニ(佐藤泰将編):歌劇「トゥーランドット」から
誰も寝てはならぬ(4')*

Part1

AKUTAGAWA: Music for Symphony Orchestra
2nd movement(5')

KING RAMA IX(Arr. PRAMOJ): Alexandra(6')

SAINT-SAËNS: Symphony No.3 in C minor, op. 78

"Organ Symphony" Iib.(10')

・Allegro moderato - Presto ・Maestoso - Allegro

Intermission(20')

Part2

RODGERS(Arr. BENNETT):The Sound of Music Medley(12')*

SCHÖNBERG(Arr. SATOH Yasumasa):
"On My Own" from Les Misérables(5')*

ANDERSON: A Christmas Festival(7')

HISAISHI:"Carrying you" from Castle in the sky(3')*

HORNER(Arr. SATOH Yasumasa):
"My Heart will Go On" from Titanic(4')*

ANDERSON:Sleigh Ride(3')

PUCCINI(Arr. SATOH Yasumasa):
"Nessun dorma" from Turandot(4')*

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
 - 共催/ロイヤル・バンコク交響楽団
 - 助成/独立行政法人日本芸術文化振興会 令和7年度特定寄付金助成金(新たなオーケストラ支援事業)
令和7年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業
 - 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) ●後援/川崎市教育委員会
- ※当初の予定より、曲順が変更となりました。



楽曲解説はP.19をご覧ください

衣装デザイン:コシノジュンコ



©Rowland Kirishima

OTOMO

Naoto

Conductor

大友直人

[指揮]

Honorary Guest Conductor

名誉客演指揮者

桐朋学園在学中にNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、日本のクラシック音楽界をリードし続けている。これまでに日本フィル正指揮者、大阪フィル専属指揮者、東京響常任指揮者、京都市響常任指揮者、群馬響音楽監督を歴任。現在東京響名誉客演指揮者、京都市響桂冠指揮者、琉球響音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督、瀬戸フィルハーモニー響ミュージックアドバイザー。

東京交響楽団とは20年間にわたり100回を超える定期公演として「大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ」を展開したほか、現在も続く「こども定期演奏会」の企画立ち上げ、立案、構成、演奏を初回から12年間担当した。大学在学中の1981年の初共演以来、既に600回を超える共演を重ねている。その中には創立60周年記念公演として京都市交響楽団との合同演奏によるシェーンベルグの「グレの歌」、ジョン・アダムスのオペラ「フラワーリングツリー」日本初演、黛敏郎の遺作オペラ「古事記」日本初演、三枝成彰のオペラ「忠臣蔵」「ジュニアパタフライ」初演、3回のタイ・バンコク公演など国内外の多くの初演曲を含む多彩な演目を開拓してきた。

大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。
京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授。

Since his debut with NHK Symphony at the age of 22, Naoto Otomo has led the highly competitive music scene of Japan. He currently serves as Honorary Guest Conductor at Tokyo Symphony, Conductor Laureate of Kyoto Symphony, Music Director at Ryukyuu Symphony (Okinawa), Artistic Director of Takasaki City Theatre, and Music Adviser at Seto Philharmonic. For over 20 years, he has produced more than 100 performances of the "Naoto Otomo Produces Tokyo Metropolitan Theatre Series" with the Tokyo Symphony Orchestra. He also directed the "Children's Subscription Concert Series" for its first 12 years. Since their first collaboration in 1981 while he was still a university student, they have performed together over 600 times. He is a Professor at Osaka University of Arts and a Specially Appointed Professor at Toho Gakuen School of Music. He is also a Visiting Professor at Kyoto City University of Arts and Senzoku Gakuen College of Music.

12/22 MON.



© Kazutaka Nakamura

NIIZUMA Seiko

Vocal

新妻聖子

[ヴォーカル]

愛知県出身。上智大学法学部在学中の2002年、TBS「王様のブランチ」でタレント活動開始。

2003年、5000倍のオーディションを勝ち抜き、初舞台でミュージカル「レ・ミゼラブル」エポニーヌ役で初舞台。続くミュージカル「ミス・サイゴン」ではヒロインのキム役を射止め、豊かな声量と表現力で来日した海外スタッフからも絶賛された。

第31回菊田一夫演劇賞、第61回文化庁芸術祭演劇部門新人賞、第7回岩谷時子賞奨励賞を受賞。2010・11年と2年連続でミュージカル誌が選ぶ女優部門第1位を獲得。数々の舞台でヒロインを務めミュージカル界屈指の歌姫として第一線で活躍。

オーケストラとの共演経験も豊富で、NHK「うたコン」、TBS「音楽の日」、CX「FNS歌謡祭」などの歌番組をはじめ、バラエティにも多数出演。

近年の主なミュージカル出演作に「王家の紋章」、「ボディガード」などがある。

2025年8月にミュージカル・アルバムとしては17年ぶりとなる「MUSICAL MOMENTS2」をリリース。

Originally from Aichi Prefecture, Japan. At the age of 11, she moved to Bangkok due to her father's job where she attended International School Bangkok. Then she moved on to study in the Faculty of Law at Sophia University in Tokyo. In 2003, she won a highly competitive audition with a 5000:1 ratio and made her stage debut as Éponine in the musical Les Misérables. She then secured the lead role of Kim in Miss Saigon. She has won several major awards as a musical actress and was ranked No. 1 in the Actress category by a musical magazine for two consecutive years. In 2020, she was introduced as "Japan's greatest musical actress" in the Music textbook for 4th graders in Elementary school. She has also appeared in numerous music programs such as "FNS Music Festival" of Fuji TV. Recently, she has starred in "the musical The Bodyguard" as Rachel Marron.



©Mari Kusakari

OHKI Mari

Organ

大木麻理 [オルガン]

東京藝術大学、同大学院修了。DAAD及びポセール財団の奨学生としてリューベック国立音楽大学とデトモルト国立音楽大学に留学。満場一致の最優等で卒業。

第3回ブクステフェーデ国際オルガンコンクール日本人として初優勝、第65回「プラハの春」国際音楽コンクール第3位、ほか国内外で多数受賞。

東洋英和女学院大学、東京音楽大学、静岡英和学院大学にて教鞭を執る。

ミュゼザ川崎シンフォニーホールオルガニスト。

Mari Ohki graduated from Tokyo University of the Arts and its graduate school.

She began postgraduate studies with Prof. A. Gast at the Musikhochschule in Lübeck, and Prof. M. Sander at the Hochschule für Musik in Detmold.

In 2012 Ohki won the First Prize at the 3rd International Dietrich Buxtehude Organ Competition on the significant historic organs in Lübeck as a first Japanese.

She teaches at Tokyo College of Music, Toyo Eiwa University, and Shizuoka Eiwa Gakuin University.

She is the exclusive organist at the Muza Kawasaki Symphony Hall.

東京交響楽団アジア・プロジェクト

東京交響楽団は、日本芸術文化振興会の助成を受け、アジア地域での音楽を通じた国際交流や教育事業を促進し、クラシック音楽文化を発展させることを目指す「アジア・プロジェクト」をすすめています。

これまで、タイ、マレーシアでの単独公演や現地オーケストラとの合同演奏会、ユースオーケストラ指導等を行っており、今回はロイヤル・バンコク交響楽団から奏者が来日して、当団ホームホールであるミュゼザ川崎での合同演奏会となりました。

Tokyo Symphony Orchestra Asia Project

The Tokyo Symphony Orchestra, with support from the Japan Arts Council, is advancing its "Asia Project" to promote international exchange and educational initiatives through music in the Asian region and to develop classical music culture.

Previous activities have included TSO concerts in Thailand and Malaysia, joint concerts with local orchestras, and youth orchestra coaching. This time, musicians from the Royal Bangkok Symphony Orchestra visited Japan for a concert at our home hall Muza Kawasaki.

12/22 MON.

Royal Bangkok Symphony Orchestra

Orchestra

ロイヤル・バンコク交響楽団 [管弦楽]

1982年、タイを代表するオーケストラになることを目指し設立。当時より、バンコク交響楽団財団マハ・ワチラーロンコーン皇太子殿下の庇護を受け、マハ・ワチラーロンコーン国王陛下が即位されたのを機に、バンコク・シンフォニー・オーケストラからロイヤル・バンコク・シンフォニー・オーケストラ(通称RBSO)と改名。2018年4月15日には、バンコク交響楽団財団をシリヴァンナヴァリ・ナリラタナ・ラジャカンヤ王女殿下の庇護下に置くことを勅許され、翌年に王立バンコク交響楽団財団と改称。韓国、マレーシア、シンガポール、ベトナム、カンボジア、インドネシア、フィリピン、オーストリア、ドイツ、フランス、日本でコンサートを行い、タイで最も旅する海外文化大使となった。2010年11月にはウィーン楽友協会で、プミポン国王陛下の楽曲を演奏した。

The Bangkok Symphony Orchestra (BSO) was established in 1982. Since then, it has grown into the leading orchestra in Thailand. After His Majesty King Maha Vajiralongkorn Phra Vajiraklaochaoyuhua ascended the throne, the Bangkok Symphony Orchestra was granted Royal permission to be renamed as the Royal Bangkok Symphony Orchestra, also known as RBSO. The foundation also comprises the Royal Bangkok Symphony Music School (RBSS), which collaborates with established and emerging artists to promote classical music, music education, and other cultural activities.

The RBSO is one of Thailand's most travelled overseas cultural ambassadors, with concerts in Korea, Malaysia, Singapore, Vietnam, Cambodia, Indonesia, the Philippines, Austria, Germany, France, and Japan. History was made in November 2010 when the BSO took to the stage of one of the world's most famous concert venues, the Musikverein in Vienna, to perform a Tribute Concert of music by His Majesty King Bhumibol Adulyadej.

Royal Bangkok Symphony Orchestra Musicians & Staff Delegation to Japan

●1st Violin	Bing Han <Concertmaster> Chot Buasuwan <Assistant Concertmaster> Thanwin Jaipain	●Oboe	Thanit Kaewrak *Principal
●2nd Violin	Chalat Limpisiri Usa Chotchamchoi	●Clarinet	Yos Vaneesorn *Principal
●Viola	Sarawut Phalacheewa *Assistant Principal Somkiat Srikham Narawit Phoomesat	●Bassoon	Thanawat Ngosawang *Principal
●Cello	Apichai Leamthong *Principal Waritpun Punnarai	●Horn	Supreeti Ansvananda *Principal
●Double Bass	Nattawut Sangkasaro *Principal	●Trumpet	Pitipong Pookaew *Co-Principal
●Flute	Teerat Ketmee *Principal	●Trombone	Arunkorn Chaisubunkanok *Principal
		●Percussion	Kasem Thipayametrukul *Principal
		Management	
		Wanchai Yanubol – General Manager	
		Shasha Shi – Public Relations	
		Hoang Huy Phan – Deputy General Manager	

芥川也寸志(1925~1989) **交響管弦楽のための音楽から第2楽章**

今年生誕100年、東京交響楽団とも深い絆で結ばれていた作曲家芥川也寸志が1950年に創った佳作で、鮮やかな音楽がアレグロで駆け抜ける第2楽章(終曲)はプラスファンにも知られる。

ラーマ9世(1927~2016)/モン・ラン・ウスミ・プラモジ(1934~2017) **アレクサンドラ**

1959年、タイ国王ラーマ9世が、イギリスのアレクサンドラ・オブ・ケント王女のタイご訪問に際し作曲。英語とタイ語の歌詞をもつ。タイ国民の誇りを込めた歓迎の音楽である。

カミーユ・サン＝サーンス(1835~1921) **交響曲 第3番 ハ短調 op.78「オルガン付き」から第II部**

フランス音楽の名匠サン＝サーンスがロンドンのフィルハーモニック協会の委嘱で作曲した壮大な交響曲から、全曲の後半楽章にあたる第2部を。オルガンの他ピアノも活躍。1886年初演。

リチャード・ロジャース(1902~1979)/ロバート・ラッセル・ベネット(1894~1981) **サウンド・オブ・ミュージック・メドレー**

1959年初演のミュージカルで、1965年の映画化で不朽の名作となった。作曲はリチャード・ロジャースとオスカー・ハマースタイン2世。今夜ほどのスタンダード・ナンバーがどんな風に響くか楽しみ。

クロード＝ミシェル・シェンベルク(1944~)/佐藤泰将(1968~) **ミュージカル「レ・ミゼラブル」からオン・マイ・オウン**

人気ミュージカル「レ・ミゼラブル」の劇中歌。エポニーヌが片思いしているマリウスはコゼットに夢中。“彼を愛しているの、でも私はひとりぼっち(その気持ちは自分だけのもの)”。

ルロイ・アンダーソン(1908~1975) **クリスマスフェスティバル**

冒頭から「もろびとこぞりて」の調ベが壮麗に響く。粋なオーケストラ曲をいくつも書いたアメリカの才人ルロイ・アンダーソンによるクリスマス・キャロル・メドレーを。1950年作曲。

久石譲(1950~) **ジブリ映画「天空の城ラピュタ」から君をのせて**

作詞宮崎駿、作曲久石譲。井上あずみが歌った1986年の映画「天空の城ラピュタ」の主題歌とご説明するまでもない。今日に至るまでカバーも多い。新妻聖子のステージでもおなじみ。

ジェームズ・ホナー(1953~2015)/佐藤泰将(1968~) **映画「タイタニック」からマイ・ハート・ウィル・ゴー・オン**

1997年の映画「タイタニック」の愛のテーマ。作曲ジェームズ・ホナーで、セリーヌ・ディオンの歌声とともに世界を魅了した。アーティスト新妻聖子のナンバーでもある。

ルロイ・アンダーソン(1908~1975) **そりすべり**

思わずほほ緩むルロイ・アンダーソンの名曲で、やはりクリスマスシーズンに欠かせない。古き良き時代の冬の情景を映し出す。そりを引く馬のひづめの音や鳴き声はさて。1948年作曲。

ジャコモ・プッチーニ(1858~1924)/佐藤泰将(1968~) **歌劇「トゥーランドット」から誰も寝てはならぬ**

プッチーニ最後のオペラ「トゥーランドット」(1926年ミラノ・スカラ座初演)のテーマ曲。トゥーランドット姫が課した謎をすべて解いた王子カラフは、明日になれば勝利は私のものと陶酔的に歌う。

12/22 MON.

Yasushi AKUTAGAWA(1925~1989) : Music for Symphony Orchestra 2nd movement

2025 is the centennial of Akutagawa's birth. This two-movement piece was composed in 1950. The second movement, with its vivid music racing through in allegro, is often performed by wind ensembles.

KING RAMA IX(1927~2016) / Mom Luang Usmi PRAMOJ(1934~2017) : Alexandra

In 1959, King Rama IX of Thailand composed this song for the visit of Princess Alexandra of Kent from the United Kingdom. This welcoming music has lyrics in both English and Thai and expresses the pride of the Thai people.

Camille SAINT-SAËNS(1835~1921) : Symphony No. 3 in C minor, op. 78 "Organ Symphony" II b.

The Master of French music, Saint-Saëns composed in 1886, commissioned by Philharmonic society of London. Second part, latter half of this magnificent symphony, features both organ and piano in 4hands.

Richard RODGERS(1902~1979) / Robert Russell BENNETT(1894~1981) : The Sound of Music Medley

Medley from the timeless musical "The Sound of Music" created by Richard Rodgers and Oscar Hammerstein II. This composer and lyricist duos created many great musicals. The 1965 film was also a huge hit. Enjoy the songs from the masterpiece.

Claude-Michel SCHÖNBERG(1944~) / Yasumasa SATOH(1968~) : "On My Own" from Les Misérables

A song from the popular musical "Les Misérables." Eponine is in love with Marius, but he is infatuated with Cosette. "I love him, but I'm all alone (these feelings are mine alone)."

Leroy ANDERSON(1908~1975) : A Christmas Festival

From the very beginning, the melody of "Joy to the World" resounds magnificently. This charming Christmas carol medley was created in 1950 by the talented American composer Leroy Anderson, who wrote many elegant orchestral pieces.

Joe HISAISHI(1950~) : "Carrying you" from Castle in the sky

Needless to the theme song for the 1986 Studio Ghibli film Castle in the Sky was written by Hayao Miyazaki and performed by Azumi Inoue. Various artists have covered this since release. Also, one of the popular numbers in Seiko Niizuma's concert.

James HORNER(1953~2015) / Yasumasa SATOH(1968~) : "My Heart will Go On" from Titanic

The love theme from the 1997 film "Titanic". Lyrics is Will Jennings. It captivated the world with Celine Dion's vocals. Seiko Niizuma's signature song.

Leroy ANDERSON(1908~1975) : Sleigh Ride

Indispensable classical master piece during the Christmas season composed by Leroy Anderson in 1948. In this delightful music, the sound of bells, horses hoover and neighing as they pull a sleigh, evokes a nostalgic scene of winter.

Giacomo PUCCINI(1858~1924) / Yasumasa SATOH(1968~) : "Nessun dorma" from Turandot

One of the famous arias from Puccini's last opera "Turandot" (premiered at La Scala in Mila in 1926). After Prince Calaf solved the three riddles posed by Princess Turandot, he sang with confidence that victory would be his by morning.

- フレンドシップコンサート開催に寄せて - Message on the Friendship Concert

東京交響楽団理事長 岡崎哲也

師走を迎え皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。このたびロイヤル・バンコク交響楽団のメンバーをお迎えし、新妻聖子さんのご出演、大友直人マエストロの指揮により東京交響楽団とのフレンドシップ・コンサートを開催する運びとなりました。悠久の時をへて友好を深めております日本とタイ王国の友好と親善にとりまして誠に意義のある催しと思っております。



私共、東京交響楽団は、昨年、今年と日本芸術文化振興会の助成を得て、バンコクでのコンサートや王立交響楽団ならびにシラパコーン大学音楽学部との提携事業などさまざまな活動を行なっており、バンコクではとくに若い世代の皆さまと豊かな交歓を実現することができました。引き続き日本とタイ王国の友好に、音楽文化を通じて豊かな実りをもたらすよう努力いたします。皆様の変わらぬご後援をお願い申し上げますと共に、本日のご来場に心から感謝申し上げます。

Tokyo Symphony Orchestra Chairman Tetsuya Okazaki

We are pleased to announce that we hold the friendship concert featuring members of the Royal Bangkok Symphony Orchestra, with the Tokyo Symphony Orchestra, Ms. Seiko Nizuma, and conducted by Maestro Naoto Otomo. With the support of the Japan Arts Council, Tokyo Symphony Orchestra have been able to carry out a variety of activities over the past two years, including concerts in Bangkok and collaborative projects with the Royal Symphony Orchestra and the Faculty of Music at Silpakorn University. In Bangkok, we were able to realize a rich exchange with the younger generation in particular. We will continue to strive to bring rich fruits to the friendship between Japan and the Kingdom of Thailand through music culture. We ask for your continued support and would like to express our sincere gratitude for your attendance today.

ロイヤル・バンコク交響楽団会長 ハラルド・リンク博士

ロイヤル・バンコク交響楽団は、尊敬する大友直人の指揮の下、東京交響楽団の素晴らしい仲間たちと、特別ゲストの新妻聖子さんとともに再び同じ舞台で共演できることを深く光栄に存じます。この特別なコラボレーションでは、両オーケストラの音楽家たちが一丸となって演奏を行い、タイと日本の友情と絆の素晴らしい象徴となります。今夜のプログラムは、芥川也寸志の「交響管弦楽のための音楽」の力強い響きから、ラーマ9世陛下作曲の優雅な「アレクサンドラ」、そしてサン=サーンスの「オルガン交響曲」の荘厳な美しさまで、伝統と祝祭を称えるものです。後半は、サウンド・オブ・ミュージックの愛されるメロディー、アンダーソンの祝祭的な作品、そして「マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン」や「オン・マイ・OWN」などのおなじみの曲をお届けします。東京交響楽団、そしてこのコラボレーションを実現してくださったすべての方々へ、心より感謝申し上げます。RBSOは、今後もこうした交流を、より多くの重要なイベントで続けていきたいと考えています。



Royal Bangkok Symphony Orchestra Chairman Dr. Harald Link

The Royal Bangkok Symphony Orchestra is deeply honoured to once again share the stage with our esteemed colleagues from the Tokyo Symphony Orchestra, under the direction of esteemed Maestro Naoto Otomo with special guest vocalist Seiko Nizuma. This special collaboration brings together musicians from both orchestras to perform as one ensemble—an extraordinary symbol of friendship and the strength between Thailand and Japan.

Tonight's programme celebrates traditions and festivities, from the powerful sonorities of Akutagawa's Music for Symphony Orchestra to the elegance of Alexandra, composed by His Majesty King Rama IX, and the majestic beauty of Saint-Saëns' Organ Symphony. In the second half, beloved melodies from The Sound of Music, Anderson's festive works, and favourites such as My Heart Will Go On and On My Own.

We extend our deepest gratitude to the Tokyo Symphony Orchestra and to all who made this collaboration possible. The RBSO hopes to continue these exchanges to many more significant events.

12/28 SUN. 29 MON.

特別演奏会「第九」2025

2025年12月28日(日)14:00 サントリーホール

2025年12月29日(月)14:00 サントリーホール

Special Concert

Sun. 28th December 2025, 14:00 Suntory Hall

Mon. 29th December 2025, 14:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット[指揮]

盛田麻央[ソプラノ]

杉山由紀[メゾソプラノ]

村上公太[テノール]

河野鉄平[バスバリトン]

東響コーラス[合唱]

三澤洋史[合唱指揮]

景山昌太郎[コンサートマスター]

Jonathan NOTT, Conductor

MORITA Mao, Soprano

SUGIYAMA Yuki, Mezzo Soprano

MURAKAMI Kota, Tenor

KONO Teppei, Bass Baritone

Tokyo Symphony Chorus, Chorus

MISAWA Hirofumi, Chorusmaster

KAGEYAMA Shotaro, Concertmaster

ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調
op.125「合唱付」(65')

I.アレグロ・マ・ノン・トロppo、ウン・ポコ・マエストロ

II.モルト・ヴィヴァーチェ〜プレスト

III.アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

IV.プレスト〜アレグロ・アッサイ

BEETHOVEN: Symphony No.9
in D minor op.125 "Choral" (65')

I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso

II. Molto vivace - Presto

III. Adagio molto e cantabile

IV. Presto - Allegro assai

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 後援/在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

本公演には休憩がありません。

楽曲解説はP.28をご覧ください



© T.Tairadate

Jonathan NOTT

Conductor

ジョナサン・ノット
[指揮]

Music Director
音楽監督

東京交響楽団第3代音楽監督。

イギリス生まれ。かつてボーイ・ソプラノ・ソロ（ルイ・フレモア指揮バーミンガム市交響楽団）、テノール歌手（ケンブリッジ大学）として活動し、王立ノーザン音楽大学でオペラの歌唱法を学んだ。ロンドンの研修所「ナショナル・オペラ・スタジオ」にコレペティートルとして所属中、英国人オペラ指揮者デヴィッド・パリーののもとで指揮法を学ぶ。その後フランクフルトとヴィースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、アンサンブル・アンテルコンタンポラン音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマンド管音楽監督も務める。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、世界の主要オーケストラ・音楽祭に客演。2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞（オペラ・オーケストラ部門）」を、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」、毎日クラシックナビ「公演ベスト10」において、R.シュトラウス・コンサートオペラシリーズ《サロメ》《エレクトラ》をベストコンサートに導く。レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、当団とは、これまでマーラー（第1・5・6番）、ブルックナー（第1・2・4・5・7・8・9番）、チャイコフスキー（第3・4番）などを録音。最新盤は、「ベートーヴェン：交響曲第9番」(EXTON/OCTAVIAレーベル、2025年12月)。

2026/27シーズンからスペイン・バルセロナのリセウ大劇場音楽監督に就任する。

With his immense charisma and inspired programming drawing on a symphonic repertoire that extends from Schubert and Bruckner to Mahler and Shostakovich, and to the very edge of creation in the world of contemporary music, conductor Jonathan Nott shares his musical and human experience at the highest level. Jonathan Nott has been Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra since 2014. Together with the Tokyo Symphony Orchestra, he led 'Elektra' in concert style to the best concert in the 'Concert Top Ten' by Ongaku no Tomo Magazine and 'Salome' to the 'Best 10 Performances' by Mainichi Classic Navi as well as the Music Pen Club Music Prize in 2020. He began his career at the opera houses in Frankfurt and Wiesbaden where he conducted all major works of the repertoire including Wagner's complete Ring cycle. Jonathan Nott has an extensive and eclectic catalog of highly acclaimed recordings including works by Mahler, Bruckner, Tchaikovsky and Shostakovich with the Tokyo Symphony Orchestra on Octavia Records. From September 2026, he will become the Musical Director of the Liceu Barcelona Opera.

音楽監督ジョナサン・ノットと 東京交響楽団の軌跡

2011 ● 初共演

10月7日 第593回定期演奏会、
10月10日 川崎定期演奏会第32回
指揮: ジョナサン・ノット
ピアノ: 小菅 優
合唱: 新国立劇場合唱団(合唱指揮=三澤洋史)
ドビュッシー: 「夜想曲」より シレーヌ
シェーンベルク: ピアノ協奏曲
ラヴェル: ダフニスとクロエ(全曲)

2012 ● 10月10日 第3代音楽監督に就任を発表



2013 ● 就任前の客演

10月13日 第614回定期演奏会
指揮: ジョナサン・ノット
ソプラノ: クリステアーネ・ブリューワー
R. シュトラウス: 4つの最後の歌
R. シュトラウス: アルプス交響曲

2014 ● 第3代音楽監督就任。披露公演を開催

4月19日 川崎定期演奏会第45回
4月20日 第619回定期演奏会
指揮: ジョナサン・ノット
笙: 宮田まゆみ
武満 徹: セレモニアル - 秋の歌-
マーラー: 交響曲 第9番

2015 ● 9月7日 記者会見

2016/17シーズンラインナップ発表
とともに2026年までの
任期延長を発表

2016 ● 4月 東京交響楽団創立70周年

創立70周年記念事業 ヨーロッパ・ツアー

10月20日 ポーランド・プロツワフ、
10月26日 オランダ・ロッテルダム
指揮: ジョナサン・ノット
武満 徹: 弦楽のためのレクイエム
(東京交響楽団1957年委嘱初演作品)
ドビュッシー: 交響詩《海》
ブラームス: 交響曲 第1番

10月22日 クロアチア・ザグレブ、
10月24日 オーストリア・ウィーン
10月27日 ドイツ・ドルトムント
指揮: ジョナサン・ノット
ヴァイオリン: イザベル・ファウスト
ベートーヴェン: ヴァイオリン協奏曲 二長調
ショスタコーヴィチ: 交響曲 第10番
(東京交響楽団1954年日本初演作品)



2016 ● モーツァルト演奏会形式オペラ 「ダ・ポンテ三部作」

第1段: 12月9日、11日 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」
指揮&ハンマーフルエーグル: ジョナサン・ノット
舞台監修&ドン・アルフォンソ: サー・トーマス・アレン
フィオルディリージ: ヴィクトリヤ・カミンスカイト
ドラベッラ: マイテ・ボーモン
デスピーーナ: ヴァレンティナ・ファルカス
フェルランド: アレック・シュレイダー
グリエルモ: マルクス・ウェルバ
合唱: 新国立劇場合唱団
モーツァルト: 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」
全2幕(演奏会形式/イタリア語上演/字幕付)
舞台監修: サー・トーマス・アレン

第2段: 2017年12月10日 歌劇「ドン・ジョヴァンニ」
第3段: 2018年12月7日、9日
歌劇「フィガロの結婚」(演奏会形式)

2019 ● ミューザ川崎シンフォニーホール 開館15周年記念公演

10月5日、6日 シェーンベルク「グレの歌」

2019 ● 音楽監督 ジョナサン・ノット指揮
東京交響楽団によるCD
『マーラー：交響曲第10番 &
ブルックナー：交響曲第9番』が、
2018年第31回
ミュージック・ペンクラブ
音楽賞優秀録音作品賞を受賞

2020 ● 新型コロナウイルスの
感染拡大による公演中止が相次ぎ、
ニコ響がスタート

音楽監督 ジョナサン・ノット & 東京交響楽団
第32回ミュージック・
ペンクラブ音楽賞
クラシック部門
「オペラ・オーケストラ部門」を受賞

来日できなかったノット監督
収録映像にて出演

7月18日 東京オペラシティシリーズ 第116回
指揮：ジョナサン・ノット
(ドヴォルザークに映像にて出演)
ブリテン：フランク・ブリッジの主題による変奏曲
(指揮無し)
ドヴォルザーク：交響曲第8番

7月25日 第682回 定期演奏会
指揮：ジョナサン・ノット
(ベートーヴェンに映像にて出演)
ストラヴィンスキー：ハ調の交響曲
ベートーヴェン：交響曲第3番「英雄」



2022 ● R.シュトラウス・コンサート・
オペラシリーズ開始
11月18日、20日 歌劇「サロメ」全1幕

史上最多45台カメラを用いた
《第九》公演を配信

R.シュトラウス作曲：
《サロメ（演奏会形式）》が
三菱UFJ信託音楽賞奨励賞を受賞

2023 ● R.シュトラウス・コンサート・
オペラシリーズ 第2弾

5月12日、14日 歌劇《エレクトラ》(演奏会形式)

指揮=ジョナサン・ノット

演出監修=サー・トーマス・アレン

エレクトラ=クリスティーン・ガーキー

クリテムネストラ=ハンナ・シュヴァルツ

クリソテミス=シネイド・キャンベル=ウォレス

エギスト=フランク・ファン・アーケン

オレスト=ジェームス・アトキンソン ほか

R.シュトラウス作曲、歌劇《エレクトラ》

(演奏会形式/全1幕/ドイツ語上演/日本語字幕付き)

2024 ● 《エレクトラ(演奏会形式)》が、
音楽の友誌「コンサート・ベストテン」に
おいて、第1位に選出

R.シュトラウス・コンサート・
オペラシリーズ 第3弾

12月13日、15日 「ばらの騎士」(演奏会形式)



2025 ● 音楽監督としてのラストシーズン開始
これまでに東京交響楽団と
180公演共演

12/28 SUN. 29 MON.

MORITA

Mao

Soprano

盛田麻央

[ソプラノ]



国立音楽大学卒業、同大学院および二期会オペラ研修所修了。パリ・エコール・ノルマル音楽院を首席、パリ国立高等音楽院修士課程を最優秀で修了。二期会『ドン・ジョヴァンニ』『ツェルリーナ』『魔笛』『パミーナ』、小澤征爾音楽塾および新国立劇場『子どもと魔法』、日生劇場『サンドリヨン』タイトルロール等に出演。コンサート・ソリストとしても、ヘンデル『メサイア』、ハイドン『天地創造』、フォーレ『レクイエム』、オルフ『カルミナ・ブラーナ』、マーラー『交響曲第4番』等で活躍している。国立音楽大学非常勤講師。二期会会員

SUGIYAMA

Yuki

Mezzo soprano

杉山由紀

[メゾソプラノ]



武蔵野音楽大学卒業、同大学院および二期会オペラ研修所修了。2015年『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼルでオペラデビュー。二期会『ジューリオ・チェーザレ』タイトルロール、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、日生劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『サンドリヨン』シャルマン王子、二期会および東京交響楽団『サロメ』ヘロディアスの小姓、新国立劇場『子どもと魔法』『椿姫』等出演。コンサートでも、バッハ『口短調ミサ』、モーツァルト『レクイエム』、メンデルスゾーン『エアリア』等で好評を博している。二期会会員

MURAKAMI

Kota

Tenor

村上公太

[テノール]



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所修了。ポローニャにて研鑽を積む。シンガポール・リリック・オペラにて多数出演の他、二期会『椿姫』アルフレード、日生劇場『コジ・ファン・トゥッテ』フェランド、新国立劇場『夏の夜の夢』ライサンダー、『ファルスタッフ』フェントン、『ジャン・スキッキ』リヌッチョ、東京交響楽団『ばらの騎士』テノール歌手等話題の公演で活躍。また、モーツァルト『レクイエム』、ベートーヴェン『ミサ・ソレムニス』等で全国各地のオーケストラと共演、好評を博している。二期会会員

KONO

Teppeï

Bass Baritone

河野鉄平

[バスバリトン]



クレーヴランド音楽院、同大学院修了。シカゴ芸術大学ディプロマコース修了。アメリカで23年間を過ごし、帰国。新国立劇場では、『夏の夜の夢』パック、『さまよえるオランダ人』オランダ人、『魔笛』ザラストロ、『ボリス・ゴドゥノフ』ヴァルラム等出演。24年二期会『コジ・ファン・トゥッテ』『影のない女』、東京交響楽団『ばらの騎士』と続けて出演、25年二期会『さまよえるオランダ人』オランダ人でも高い評価を得た。コンサートでも、モーツァルト『戴冠ミサ』、ドヴォルザーク『テ・デウム』等のソリストを務める。二期会会員

MISAWA Hirofumi, Chorusmaster

三澤洋史 [合唱指揮]

国立音楽大学声楽科卒業。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。1999年から5年間「パイロイト音楽祭」で祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2011年、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座において合唱の音楽作りを研修。2016年JASRAC音楽文化賞受賞。今年3月まで新国立劇場合唱指揮者を24年間務め、現在新国立劇場桂冠合唱指揮者。グレゴリオの家宗教音楽研究所理事、京都ヴェルディ協会理事、日本ワーグナー協会評議員。



Tokyo Symphony Chorus, Chorus

東響コーラス [合唱]

1987年9月、東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指導者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招き、公演ごとに出演者を決定するオーディションを行うことで常に演奏の質を高めている。歴代音楽監督の故秋山和慶、ユベール・スダーン、ジョナサン・ノットからの信頼も厚い。古典から現代音楽、また日本初演など幅広いレパートリーに対応している。他団体からの出演依頼も多く、近年では「ラ・フォル・ジュルネ」に出演、「長野の県民文化会館とウィーン楽友協会の提携40周年演奏会」に賛助出演し好評を得た。2020年にはアマチュア合唱団として初めて「ミュージック・ペンクラブ音楽賞 室内楽・合唱部門」を受賞。

メンバー表

●合唱指揮:三澤洋史

稽古ピアニスト:古瀬安子、清水 綾
発声指導:大沼 徹、辻 裕久、中山美紀

●委員長 岡 邦子 (Sop.)

●副委員長 鳥居順子 (Sop.)

垣花亜妙子 (Alt.)
奥貫壮史 (Ten.)
堀 浩史 (Bas.)

●パートリーダー

Sop. (正)遠藤由理 (副)佐藤由紀子
Alt. (正)水越睦美 (副)小林朋子
Ten. (正)内山誠彦 (副)枇杷高志
Bas. (正)水野 敬 (副)竹内誠治

●コーラス委員

Sop. 石井 恵、小野寺美和、増淵由佳
Alt. 岡本いつか、竹内あゆみ、鈴木みお
Ten. 菅野広和、木村 健、和田 敏
Bas. 北浦康勢、篠田一朗、仲 恭令

Soprano

安部こずえ
石井真穂
石村友希子
内野英子
遠藤由理
大図マリ
岡 邦子
小笠原美貴
小野寺美和
川崎仁美
佐藤由紀子
鳥居順子
仁平朋子
東原なお
平田 菜
本行佳奈
増淵由佳

松本恵美
武藤弘美
室井千晶
森田恵子

森本由希
山津裕美
山之内文子

Alto

石渡範子
伊藤晴子
伊藤弥緒乃
糸永怜奈
岡本いつか
尾崎いずみ
尾田雅代
小名雅恵
加藤由美子
菊池万美子
木内道子
後藤幸子
小林朋子
小張さゆり
齋藤由紀
佐々木美登
竹内あゆみ

辻 朱美

水越睦美
鈴木みお
吉井久美子
吉岡美佳子
吉村美恵子
和田真理
渡邊朋子

Tenor

有馬 猛
内山誠彦
大図健史
小川 徹
小川英樹
奥貫壮史
菅野広和
木村 貴
竹田 忍
竹本大祐
谷川 啓
谷川俊一郎

佃 浩一

中原裕幸
西 宏隆
服部俊治
枇杷高志
増淵 隆
水谷晴彦
和田 敏

Bas

荒木康司
池上陽一郎
岡野一哉
河村太郎
菊池 靖
木内正則
黒澤 謙
小山治彦
杉山慎二
清水 達
竹内誠治
萩野 慎

早川克己
平川尚義
水口敏也
水野 敬
宮坂知明
矢野 通
山之内達也
米田 光
渡辺理公男

12/28 SUN. 29 MON.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)

交響曲 第9番 二短調 op.125「合唱付」

ベートーヴェンの「交響曲第9番」は、彼の記念碑的な作品である。ここで彼が伝えようとした中心的メッセージは、言わずと知れた第4楽章の「歓喜に寄す」、なかでも「すべての人は兄弟になる」という理念だったと考えられる。交響曲全体は二短調の第1楽章から、スケルツォ風の第2楽章、そしてたいへん美しい変奏形式による第3楽章を経て、二長調の第4楽章へ―「交響曲第5番」と同様、「闇から光へ」という構造になっている。激しい不協和音とともに始まる第4楽章では、第1~3楽章の楽想が短く回想され、器楽で「歓喜の主題」が提示された後、バリトンのソロによって「おお、友よ、こんな音楽はよそう!」とそれらが否定される。そして「もっと快い、喜ばしい音楽を始めようではないか!」という呼びかけに応じるように『歓喜に寄す』が導入されるのである。

フリードリヒ・シラーの詩「歓喜に寄す」は、1786年に発表されるとすぐに話題を呼んだ。ベートーヴェン以外にも40人以上が歌にしたことが知られている。若い頃から生涯にわたってシラーの文学に親しんでいたベートーヴェンも、早くからこの詩に関心を持ったようだ。まだ故郷のボンで活動していた1792年、22歳の頃にはすでに、この詩に作曲しようとしていたという証言がある。その後彼は、何度かこのアイデアに立ち戻り、作曲を試みたが、どれも完成には至らなかった。それでも、この詩に曲を付けるというアイデアをベートーヴェンは長く温め続けた。

それが具体化したきっかけは、1817年にロンドンから2曲の交響曲を委嘱されたことであった。このとき、交響曲という器楽のジャンルに声楽を盛り込む、という斬新なアイデアが生まれた。しかしこれは、ベートーヴェンにとっても容易なことではなかったようで、かなり構想が進んだ段階のスケッチでさえ、「器楽フィナーレ」の可能性も模索されていた。

ベートーヴェンが本格的に「第九」に取り組んだのは1823年春頃からである。彼にしては珍しく、この時期は「第九」の作曲だけに集中し、第1楽章から順に書き上げていった。完成したのは1824年初頭、53歳のことであった。

そして迎えた1824年5月7日の初演。演奏会を告知するポスターには、大きな文字でベートーヴェンが「総指揮に参加する」と書かれており、ベートーヴェンが姿を現す、そのこと自体が格別の意味をもってたと想像される。もっとも、難聴が進んでいた彼が実際に指揮者として全体を統率することは難しく、各楽章の冒頭のテンポを指示するだけであった。ともあれ、この初演は拍手喝采の大成功を収めた。しかし、一度聴いただけではよく理解できなかった、というのが聴衆の本音だったようだ。『総合音楽新聞』

には「この真に類まれなフィナーレは、もっと凝縮された形であったならばはるかに多くの感銘を与えたに違いない、そして残酷な運命が自分自身の作品を聴く能力を作曲家から奪わなかったならば、作曲家自身も同意見であろう、と固く確信している」という(いまでは信じがたいような)コメントに続けて「ただ一つの望みは、この驚異的な作品がただちに再演されること」だと記されている。その後、世界中で数え切れないほど再演され続けるとは、当時の人々も、作曲家自身も、まったく予想していなかったことだろう。

「第九」はこれまでさまざまな場面で演奏されてきた。それは、音楽の美しさもさることながら、シラーとベートーヴェンのメッセージに強く訴えかけるものがあるからであろう。「この世のしきたりが 容赦なくひき裂いたものを、ふたたび結びつけてくれる」—しかし、ウクライナやガザを挙げるまでもなく、世界各地には「歓喜に寄す」で歌いあげられる内容がユートピアのように感じられてしまう悲惨な状況がある。ウィーンでの初演から200年以上経った今日でもなお、この交響曲がもつ人類愛という理念は、希求すべきものとして切実に鳴り響くように思えてならない。

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロppo、ウン・ポコ・マエストーソ

第2楽章 モルト・ヴィヴァーチェ〜プレスト

第3楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

第4楽章 プレスト〜アレグロ・アッサイ

越懸澤 麻衣 Text by KOSHIKAKEZAWA Mai

作曲：1818年、1822～1824年

初演：1824年5月7日ウィーン、ミハエル・ウムラウフ指揮

編成：フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦5部、独唱(ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、バリトン)、混声合唱

Symphony Lounge [シンフォニー・ラウンジ]

豊かな冒険心と生命力

東京交響楽団(東響)音楽監督のジョナサン・ノットが2026年3月で退任する。海外の指揮者と日本のオーケストラの関係としては異例の長さといえる12年に迫る任期だった。この両者の成果を音楽評論家の山崎浩太郎氏が振り返る。

「戦争レクイエム」は合唱を加えた大編成だった©平鑑平/TSO

東響の音楽監督として最後の夏となる7月19日、ノットはオーケストラの本拠地 ミューザ川崎シンフォニーホールで、ブリテンの「戦争レクイエム」を指揮した。



7月の演奏会で「戦争レクイエム」を指揮するノット©平鑑平/TSO

ノットが生まれた1962年に初演されたこの作品では、ラテン語の典礼文に、第1次世界大戦で戦死した詩人、ウィルフレッド・

オーウェンが戦場体験を基に英語でつづった詩が挿入される。

いつか来る最後の審判と目の前の戦争、それぞれの恐怖。時空を超えて両者をより合わせた作品は今も、今だからこそ切実さをもつ。名作のもつ普遍の生命力だ。

舞台上のオーケストラは大小二つに分割。小集団は舞台上手前方で、オーウェンの詩を歌うテノールのロバート・ルイスとバリトンのマティアス・ウィンクラーの伴奏役となる。大集団は、舞台後方の客席から典礼文を歌う東響コーラスおよびソプラノのガリーナ・チェプラコワと、ともに演奏する。また、4階客席の通路で歌う東京少女合唱隊は、天界からの歌声のような、神秘的な響きを聴かせた。

ミューザ川崎の美しい音響空間が立体的に活用され、大編成の力強さと個々の澄

んだ響きが見事に共存する。オーケストラに加えて東響コーラスがすばらしい。東響専属のこのアマチュア合唱団は錬成度が高く、全員が暗譜で歌う。

東響とコーラスとミュゼ川崎の交響。ノットが篤く信頼する三拍子がそろった演奏会だった。

ノットが東響の第3代音楽監督に就任したのは2014年9月のことである。ドイツのバンベルク交響楽団の首席指揮者として長く活躍、ベルリン・フィルなど一流オーケストラとの共演を重ねている指揮者が、日本にポストを持つというニュースには驚かされた。

ところが任期が始まると、楽団と聴衆だけでなく、ノット本人も満足していることが明らかになった。就任1年後に早くも発表された任期延長は、ノット自らの提案で25年度までという、異例の長さとなったのだ。

この人の演奏会は、趣向をこらした選曲も魅力的だった。現代音楽の造詣も深く、20世紀のリゲティの実験的な音楽を、バッハやバロック期の作品と組み合わせるなど、知的で意欲的なプログラムをたびたび組んだ。

その演奏には高い機能性と同時に、豊かな冒険心と熱い生命力が宿っていた。だから珍しい曲目でも、毎回多くの聴衆が集まった。

エルガーの「ゲロンティアスの夢」やウォルトンの「バルシャザールの饗宴」、リゲティのレクイエムなどの大曲や難曲でも、東響コーラスの実力を存分に発揮させた功績も忘れがたい。

ノットの任期はまた、東日本大震災で受けた損傷の修復のため、13年春まで2年間の休館を余儀なくされたミュゼ川崎の、再開場後の復活の道程そのものでもあった。

そのなかで、16年から3年連続で上演したモーツァルトの「ダ・ポンテ三部作」、22年の「サロメ」に始まるリヒャルト・シュトラウスのシリーズでは、演奏会形式のオペラ上演の醍醐味を味わわせてくれた。

夏の音楽祭「フェスタサマーミュゼKAWASAKI」では16年から開幕演奏会を指揮、急な代役を引き受けたこともある。

20年のコロナ禍では、来日不可能となったため、ノットの指揮映像を見ながら東響が演奏したこともあった。そして翌年、久しぶりの本拠地での演奏会のカーテンコールで、「ただいま」と書かれた白布を広げた瞬間のマスク越しの笑顔は、とても素敵だった。



コロナ下で開かれた演奏会であいさつ(2021年5月)©平沼平/T S O

19年からは、年末恒例の「第九」も毎年指揮した。シェフとはいえ、日本に定住しているわけでもない多忙な指揮者としては、きわめて異例のことである。交響楽団の音楽監督が持つべき責任感とプライドを、身をもって示す人なのだ。

この後も、期待の演奏会が続く。東響コーラスとのバッハの「マタイ受難曲」、音楽監督として最後の定期演奏会での、就任披露のときと同じ武満徹の「セレモニアル」とマーラーの交響曲第9番。年末の「第九」に、掉尾を飾る大晦日の「MUZAジルベスターコンサート」など。感謝とともに、その日々を心して見届けたいと思う。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Kegami

ご芳名 (敬称略)

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらくホールディングス
株式会社ティーワイリミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ
株式会社雅致仁

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
税理士法人WATANABE

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッセンエレクトロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山齒科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社



©N. Ikegami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございます(11月12日現在、五十音順)。

ご芳名 (敬称略)

個人会員

サークル50

伊藤 晴美	澤田 秀雄
伊藤 美樹	清水 尚彦
沖田 陽子	山口 積恵
鷺海 暈明	山口 学
木暮 紀子	匿名 4名

サークル25

荒木 陽子	手塚 和彦
猪田 隆文	戸川 二郎
井上 孝昭	長瀬 雅則
岡野 平一哉	平山 智史
加藤 英輔	山本 誠一郎
後藤 実	匿名 2名

サークル10

天野 佳和	高田 光官
五十嵐 建平	高津 麻子
井澤 菜緒子	高野 幸一
石川 晴依世	高島 琢己
井上 千恵子	高家 正行
岩田 新	田中 之博
内山 誠彦	竹田 忍
梅沢 麻衣	田中 建一
遠藤 秀和	谷川 秀明
大城 明幹	谷藤 明雄
大崎 明子	千葉 清隆
大島 肇	角田 直子
太田 純子	中澤 守正
大塚 具幸	中村 豊
大類 浩	成瀬 倉祥
岡 邦子	西谷 公男
尾崎 茂	原田 美保子
片山 泰輔	枇杷 高志
片山 千栄	星 久人
片山 尚弘	増岡 聡一郎
金山 元	三浦 麻子
金子 好生	水越 睦美
金田 賢市	満田 高久
木質 光剛	森 恭博
菊池 正則	森 京子
小林 光	森口 健
古丸 健	森口 優子
近藤 和喜夫	森下 国彦
斎藤 秀子	森下 昭
佐々木 真	山上 典彦
佐野 利勝	山口 重雄
清水 幹雄	山本 明
白井 恭一	山本 久美子
高澤 美貴子	吉井 美恵子
	吉村

米岡 修一
匿名 15名

フレンズ5

東 恭代	高際 比呂志
有江 純子	寺西 基之
石原 祥子	中尾 守
潮田 伊織	中島 信男
大川 明彦	早川 利郎
大野 紀子	松信 正志
奥秋 和彦	村松 秀幸
河野 愛	山田 聡
小林 義彦	山田 修造
佐藤 信一郎	山本 吾良
塩澤 誠司	吉田 哲四郎
	匿名 5名

フレンズ3

秋山 真一郎	小木曾 孝
明田 重樹	古杉 絢
荒 洋一	小林 美智子
石澤 卓志	生田 明美
井上 聖恵	佐藤 悦子
聡 聡	佐藤 健司
正明 正明	清水 良枝
純 純	新保 和浩
透 透	杉田 弘也
啓一 啓一	鈴木 忠明
大塚 啓司	須田 眞理子
大埜 展男	関根 三善
大槌 昌資	高坂 麻由子
岡村 兵衛	竹内 あゆみ
岡本 直毅	田中 美貴子
小川 高志	田山 智広
奥瀬 篤	都築 豊
奥田 桂子	中村 崇明
小澤 俊文	中村 元嗣
尾島 万里	中村 幸雄
小田切 明子	永井 洋一
修 修	西田 悦子
加香 雄一	西田 尚弘
加藤 政晴	根本 直之
加藤 由美子	根本 暢明
兼子 伸彦	野島 秀太郎
菊池 伸治	林 美奈子
菊池 伸治	福田 昭夫
木鋪 万裕	藤田 栄
北川 洋	藤田 淑子
木下 盛弘	藤野 盾臣
久保田 一穂	藤森 朗

星 直樹
堀江 智巳
松下 一彦
三橋 正典
村田 拓郎
森本 由希
森山 健治
安江 仁孝

*数下 眞平
山田 敏之
山中 喜義
鈴木 みお
横尾 順
吉富 眞紀子
吉原 美紗恵
和田 真理
匿名 25名

フレンズ1

■あ	梅原 秀元
相磯 浩	梅本 千枝子
青野 寛道	江藤 祐子
赤坂 佳子	大川 剛
赤崎 述子	大友 眞志子
秋元 節恵	大島 克義
丸元 淳志	大島 孝義
朝倉 わか子	大島 初彦
浅里 文男	大島 康彦
安達 裕一	大島 裕美子
阿部 靖彦	大塚 賢久
新井 祥一	大友 英司
池田 利昭	*大貫 由香
池田 弘毅	大畑 音信
大堀 由紀	大堀 慶裕
石渡 政徳	大森 幸吉
磯村 幸一郎	大八木 節子
井手 泰宏	*岡田 浩一
伊藤 勉	岡田 政顕
伊藤 晴子	岡田 正道
伊藤 宗功	岡田 美穂
伊藤 力雄	岡野 明德
福葉 順一	岡本 勝利
康子 康子	小川 幾子
正 正	小川 徹
由紀夫 由紀夫	小川 知子
今井 邦男	奥冲 和歌子
今宮 美知子	奥泉 亮子
今村 知子	奥田 由美子
今村 裕	奥田 壮史
岩澤 淳子	奥村 克彦
岩瀬 順子	小倉 茂
根子 裕一	尾崎 正美
上田 洋子	小名 雅恵
白屋 正昭	小野 信也
内海 重男	小野 英樹
内田 誠	小野 純二
宇野 正芳	
梅里 拓志	
*梅崎 耕司	
	■か
	甲斐 幸士
	海藤 慶子

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員



©N.Ikegami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(11月12日現在、五十音順)。

- | | | | | | |
|---------|---------|--------|----------|---------|----------|
| 香甫 大樹 | 佐久間 昭宏 | 竹腰 正隆 | 林本 秀範 | ■や | 吉見 幸子 |
| 方波見 和雄 | 佐々木 紀明 | 竹下 裕行 | 原 ひとみ | 柳沼 美智子 | 米田 徹 |
| 葛城 伸一 | 佐々木 通博 | 武田 和 | 原田 慶子 | 山内 隆幸 | 米田 光 |
| 加藤 聖隆 | 佐々木 基 | 島 遼太郎 | 春川 京子 | 山縣 裕児 | 米谷 克幸 |
| 加藤 里加子 | 佐藤 幸子 | 多田 泰三 | 坂東 泰子 | 山岸 勇一郎 | ■わ |
| 川口 善行 | 佐藤 大助 | 田中 敬子 | 肥後 恵子 | 山崎 純代 | 渡邊 朋子 |
| 川名 康一 | 佐藤 孜 | 田淵 泰弘 | 裕谷 亜樹 | *山崎 由美子 | C.S. |
| 川野 安子 | 佐藤 深雪 | 田部 美也 | 平田 行雄 | 山田 美生子 | N.S. |
| 川之上 裕美子 | 佐藤 美和子 | 玉井 正浩 | 廣岡 真由美 | *山本 恵子 | T.Saito |
| 菅野 広和 | 佐藤 由紀子 | 冨田 晴久 | 廣瀬 泰文 | 山本 博 | 匿名 143 名 |
| 菅野 雄平 | 重成 睡 | 塚田 和男 | 廣中 直行 | 湯川 俊明 | ■崇賞会員 |
| 岸本 裕子 | 茂野 俊郎 | 築館 玲子 | 深沢 茂実 | 吉江 健志 | ヨーコ・ナガエ |
| 北村 雅子 | 穴戸 一朗 | 坪井 洋一 | 福嶋 英和 | 吉岡 昌敬 | チェスキーナ |
| 北村 眞 | 篠田 俊也 | 鶴岡 敬一 | 藤田 鋼一 | 吉田 昌敬 | |
| 木下 泰子 | 柴橋 渡川 | 寺田 治男 | 藤田 透 | 吉富 美紀 | |
| 木下 亮平 | 波川 朋子 | 遠夫 淳夫 | 藤原 正之・文子 | *吉見 徹 | |
| 木村 好一 | 嶋谷 宏明 | 登原 明史 | 古市 雄二 | | |
| 木村 達央 | 清水 重夫 | 富川 泰雄 | 古川 郁子 | | |
| 木村 富士子 | 志村 崇 | 富田 圭祐 | 古澤 美樹 | | |
| 清田 一正 | 下田 和代 | 友近 圭祐 | 古屋 清敏 | | |
| 久保田 伸一 | 庄司 一彦 | 萩森 祥悟 | 宝徳 光樹 | | |
| 倉谷 宏樹 | 白石 宏樹 | 豊島 幸生 | 細川 由利 | | |
| 栗原 潔 | *進藤 ひろみ | 鳥居 順子 | 堀 浩史 | | |
| 小石 恵子 | 啓次 夕紀夫 | 鳥居 夕紀夫 | 堀川 信子 | | |
| 小泉 博 | ■な | | 堀川 眞世 | | |
| 小糸 健治 | 中沢 忠 | | ■ま | | |
| 好士崎 穂子 | 中村 治人 | | 牧口 光郎 | | |
| 河野 太 | 長村 秀成 | | 真太郎 正司 | | |
| 国府 里美 | 長瀬 利明 | | 幕田 正司 | | |
| 国府 保周 | 永田 郁子 | | 柳井 明 | | |
| 小寺 駿乃祐 | 長濱 通子 | | 松岡 秀樹 | | |
| 小西 淳 | 新倉 啓介 | | 松澤 聡 | | |
| 小沼 敬四郎 | 西岡 直実 | | 松下 泰之 | | |
| 小林 恭二 | 西岡 昌紀 | | 松本 繁 | | |
| 小林 光一 | 西川 晶 | | *松本 純 | | |
| 小林 宏州 | 西川 淑子 | | 圓尾 隆則 | | |
| 小林 浩 | 西村 真 | | 三神 雅弘 | | |
| 小林 優大 | 西村 陽子 | | 水野 弘 | | |
| 小森 クミオ | 西山 英昭 | | 水谷 晴彦 | | |
| 小山 智代子 | 野口 信弘 | | 水谷 純子 | | |
| 近内 光一 | 野口 真有美 | | 宮川 悦子 | | |
| 近内 友史子 | 野島 紀久 | | 三宅 雅之 | | |
| 後藤 美穂 | 野村 一成 | | 野村 健司 | | |
| 後藤 裕二 | 野村 真澄 | | 宮崎 哲 | | |
| ■さ | ■は | | 宮崎 信夫 | | |
| 齊木 一宏 | 橋爪 千鶴子 | | 宮寺 昇 | | |
| 齊藤 ひろ子 | 橋本 和雄 | | 宮本 陽子 | | |
| 齊藤 博 | 橋本 憲人 | | 村上 信司 | | |
| 齊藤 有司 | 橋本 幸男 | | 村本 信幸・京子 | | |
| 酒井 典子 | 長谷川 博 | | 目黒 英一 | | |
| 坂本 タカ子 | 長谷川 眞 | | 森 里美 | | |
| 前刀 禎明 | 早川 明男 | | 森島 政和 | | |
| *櫻井 智仁 | 林 欣吾 | | 諸岡 暄子 | | |
| | 林 博子 | | | | |

贈贈・相続ご寄付(敬称略)

- 竹内 容子
- 齊藤公治メモリアル基金
- 牧野 季子
- 岡橋 純男
- 岡橋 孜

法人定期会員

【定期演奏会】
東京コンテナ工業株式会社



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しません。特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当回主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱いのみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることを申し出てください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

- | | |
|-------|---------|
| 都築 豊 | 松永 勝宏 |
| 坪井 洋一 | 森山 雅一郎 |
| 東 由美子 | 山本 淳一 |
| 藤井 照子 | 匿名 13 名 |
| 星 直樹 | (敬称略) |
| 前田 泉 | |

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511へお電話でお願いたします。



<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
~29,999円

フレンズ3

年額3万円
~49,999円

フレンズ5

年額5万円
~99,999円

サークル10

年額10万円
~249,999円

サークル25

年額25万円
~499,999円

サークル50

年額50万円~

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、会社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円~

シルバー

年額30万円~

ゴールド

年額50万円~

ダイヤモンド

年額100万円~

プラチナ

年額1000万円~

会員特典	詳細はHP、 又はお電話でお問合せ下さい					
	法人会員	サークル 会員	フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1	
主催公演へご案内	○	○				
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○		
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○	
ご芳名掲載	○	○	○	○	○	
主催公演チケット先行予約*1	○	○	○	○	○	
公演チケットをご優待価格にてご案内*2	○	○	○	○	○	

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュゼザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分³について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます⁴。

*4但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

楽団員が振り返る

音楽監督 ジョナサン・ノットとの 思い出公演(曲)



小川ニキティングレブ 第1コンサートマスター

ノット監督が指揮を務めた間、東響は音楽の大陸を訪れただけでなく、マリアナ海溝からエベレストの山頂まで足を延ばしました。ノット監督は同じプログラムを繰り返すことはなく、バルク、リゲッティ、ブーレーズなど私たちにとってほぼ新しい曲もまるで自分の宇宙を掌握しているかのようなのでした。最も思い出深いのは、ヨーロッパツアー中に楽友協会で演奏した時のことです。満席となったウィーンで演奏できたことは一生忘れられません。私にとって、ノット監督とのエベレストはかけがえのない思い出です。二度と忘れないでしょう。



上間善之

首席ホルン奏者

ずばりマーラー:《交響曲第5番》です。
(2022年7/16 第701回定期)

他にも数多くの公演が印象に残っていますが、ホルン奏者にとって大挑戦の曲でノット監督に多くの事、特にリスクを取る事の大切さを学びました。この曲はずっと記憶に残ると思います。他にも《サロメ》や、《ばらの騎士》、《ダフニスとクロエ》、《ブルックナー:交響曲8番》、等々です。



清水太

首席ティンパニ&
打楽器奏者

2018年7月の定期演奏会でのエルガー:《ゲロンティアスの夢》は、特別な思い出です。

音楽の美しさに東響のティンパニストで本当に良かったと実感しました。また、後にノット監督がイギリス音楽を指揮することに照れくささを感じているとお聞きし、同じ島国として、その微笑ましい感覚に共感を覚えました。



福井 蔵 首席ファゴット奏者



初顔合わせでラヴェル:《ダフニスとクロエ》を演奏した際に今までとは違った響きで良い演奏だったとお客様に言われ、素晴らしい指揮者だと感じました。ショスタコーヴィチ:《交響曲第4番》やシェンベルク:《グレの歌》も思い出深く、この難曲に対し音楽的かつ、高度な要求をされた結果、曲の素晴らしさを実感させ、感動さえさせてもらった印象です。

浦脇健太

オーボエ奏者



ノット監督との思い出の公演はR.シュトラウス:《サロメ》です。舞台にいる全員のものすごい集中力と熱量に圧倒され、リハーサルの時は、終わった後もしばらくステージから動けないほどの衝撃でした。そして本番をやり切った時の達成感とお客様の反応は、東響に入って、ノット監督と一緒に演奏できて本当に良かったなと思った公演でした。

小林壺成

第1コンサートマスター

監督とはルトスワフスキから始まり、ディティュー、モーツァルト:《レクイエム》ブラームス:《交響曲第2番、3番》、R.シュトラウスオペラシリーズ、ラッヘンマン、シェーンベルク、マーラー、ブルックナー、ドビュッシー、ベートーヴェン、ブリテン、バッハ…難しいけど、取えて選ぶならブラームス:《交響曲第3番》とR.シュトラウス:《エレクトラ》かな。この2公演は僕と監督の関係性が変わっていったと感じる公演です。



青木篤子

首席ヴィオラ奏者

ノット監督と演奏した全ての曲が忘れ難いですが、取えてひとつ挙げるなら、2019年11月定期のマーラー:《交響曲第7番》です。どんなに情報量の多いスコアでも全て余さずタクトで伝えて来る監督に、最大限の集中力で必死に食らいついた結果、今まで見た事のなかった新しい世界が見えた気がしました。



伊藤文嗣

ソロ首席チェロ奏者

2023年11月のブルーーズ:《メサジェスキス》です。

ノット監督からチェロセクションへオファーして下さり、挑戦することができました。凡そ8分という短い曲ではありますが大変に難しい曲で、数ヶ月前から自主練習を行いセクションとの絆やレベルアップを感じることができ、特に印象に残っています。勿論この曲に限らずノット監督とは多くの公演で大変に成長させて頂き感謝しております。



ローリー ディラン

首席トランペット奏者



ノット監督との思い出の公演は、2025年4月12日のオペラシティシリーズです。入団後初めてマーラー:《花の章》を演奏することになり、最終リハで監督の助言により急速ロータリートランペットに変更しました。その選択は大正解で、本番も無事吹き切ることができました。今でも監督と話す際に、あの時ロータリー特有の色が出て良かったと振り返ります。

近藤千花子

クラリネット奏者

断トツの思い出公演ベスト1は、2011年10月のノット監督が客演指揮者として初めて共演した定期演奏会です。ラヴェル:《ダフニスとクロエ》のリハーサルが始まった瞬間、色彩豊かな音色が解放された強烈な記憶があります。本番もさらに魔法がかけられたようで、終演後の帰り道は本当にハッピーでした。この公演をきっかけとして監督就任へとつながり、東響との素晴らしい旅が始まりました。



東京交響楽団は2026年4月に創立80周年を迎えます。

第4代音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティの音楽監督就任披露公演、楽団創立80周年公演のほかにも音楽界を牽引する巨匠、深みを増すベテラン指揮者陣、そして当団初登場となる次世代を担う若き俊英たちが登場。世代を超えた響きが重なり、創立80周年を華やかに彩ります。

選べるプラン・1回券 いよいよ発売

東響会員先行発売 2026年1/20(火)

オンライン先行発売 1/23(金)

一般発売 1/28(水)

定期会員券 好評発売中

■定期会員券(定期演奏会/川崎定期演奏会/東京オペラシティシリーズ)

定期会員にはお得な特典が6つ!

1.座席の指定

年間を通してあなたの指定席を確保

2.お得な料金

1回券で購入するよりも約30%もお得

3.座席の継続

最優先で次年度の定期会員券の継続、座席の変更・追加(同シリーズ)が可能

4.先行発売

主催公演のチケットを一般発売に先駆けて購入可能

5.会員割引

主催公演の1回券を10%引きで購入可能

6.日程の振替

単独主催の同月・同一プログラムに限り振替が可能(先着30枚限定)

来年の「第九2026」は… 2026年12月28日(月)18:30、29日(火)14:00

会場 サントリーホール

出演 指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ
合唱:東響コーラス ほか

発売日 東響会員先行発売:2026年7/8(水)
オンライン先行発売:7/10(金)
一般発売:7/16(木)



NEXT PROGRAM

1/10 (土) ニューイヤーコンサート 2026
14:00 サントリーホール

1/12 (月・祝) ニューイヤーコンサート 2026
14:00 横浜みなとみらいホール

指揮:ユベール・スダーン

ピアノ:小山実稚恵

ウェーバー:歌劇「魔弾の射手」序曲

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番

ドヴォルザーク:交響曲 第9番「新世界より」

[1/10]SSシングル¥9,000 SSペア¥16,000

S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000

[1/12]S¥6,500 A(2階LA,RA,Pブロック)¥4,000



3/14 (土) 川崎定期演奏会 第104回
14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮:藤岡幸夫

ヴァイオリン:若尾圭良

チェロ:佐藤晴真

ピアノ:福間洸太郎

プロコフィエフ:ヴァイオリン協奏曲 第2番

ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 口短調

サン=サーンス:ピアノ協奏曲 第5番「エジプト風」

S¥7,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500 P¥3,000



©Shin Yamagishi

3/28 (土) 第738回 定期演奏会

原田慶太楼
正指揮者最後の公演!

18:00 サントリーホール

指揮:原田慶太楼

カウンターテナー:彌勒忠史

合唱:東響コーラス

合唱指揮:根本卓也

コープランド:アメリカの古い歌[第1集]

バーンスタイン:チチェスター詩篇

ショスタコーヴィチ:交響曲 第5番

S¥8,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500



©MASATOSHI YAMASHIRO

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511(平日10:00 ~ 18:00 /土日祝休)

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。

桂冠指揮者にユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人、永久名誉音楽監督に秋山和慶を擁する。

2026年4月より第4代音楽監督としてロレンツォ・ヴィオッティが就任予定。

The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine. Der Rosenkavalier in Concert Style (2024)concluded the finale of R. Strauss project with a great acclaim. They won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 83 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

Mr.Viotti will become the 4th Music Director from April 2026.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
【TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION】
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY SOUNDBOARD
Symphony

Symphony 2025年(令和7年)12月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト